

The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

景況レポート

2023年1～3月期 **No.37**

Business Condition Report

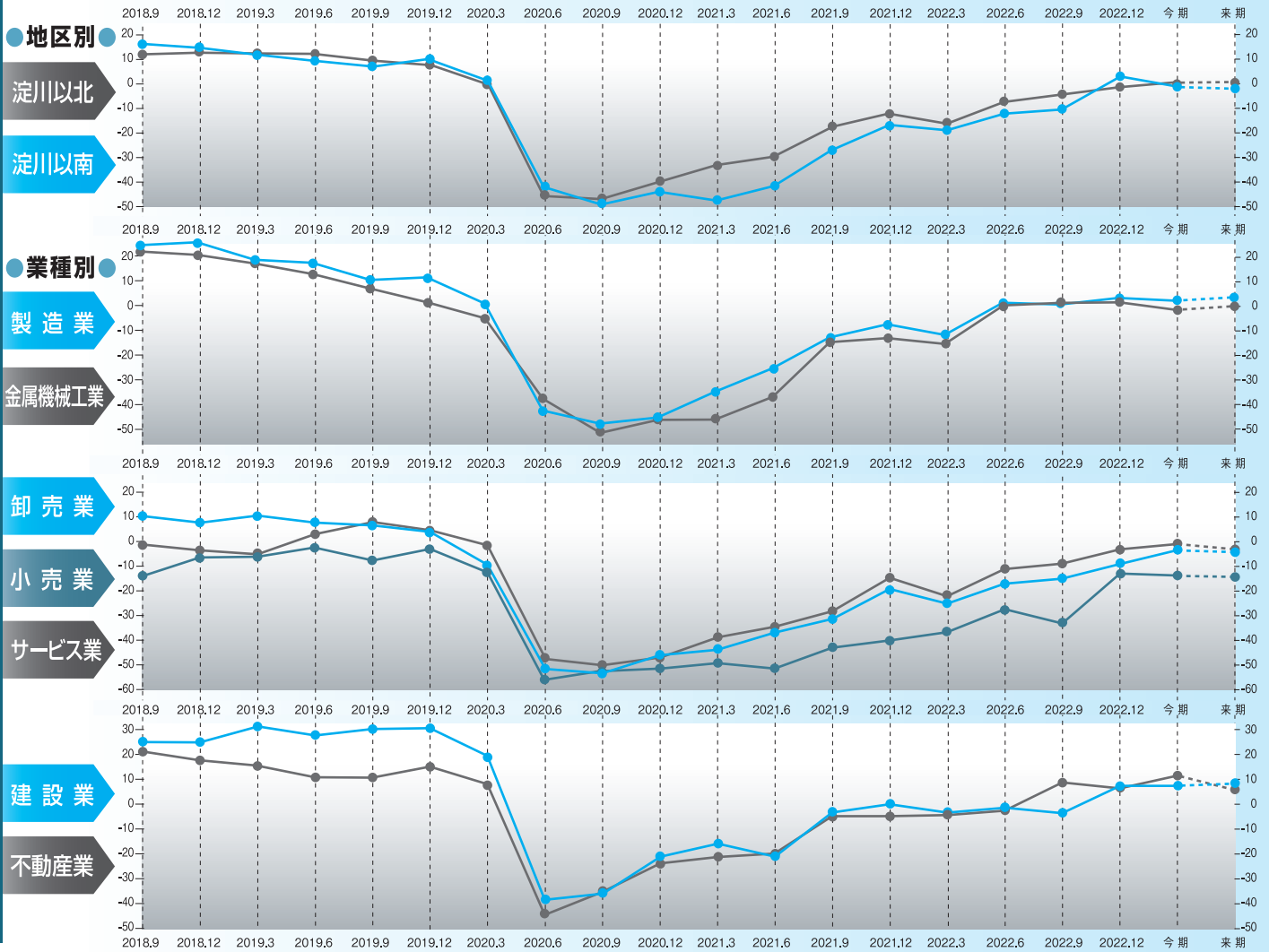


この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫



地区別・業種別
業況判断DIの推移



INDEX

- 地区別・業種別 業況判断DI 来期予想までの推移・目次……………1
- 調査概要……………2
- 全業種総合……………3・4
- 製造業……………5
- 金属機械工業……………6
- 卸売業……………7
- 小売業……………8
- サービス業……………9
- 建設業……………10
- 不動産業……………11
- 特別調査「物価上昇の影響と賃上げ動向について」…12・13・14

〈調査概要〉 調査対象……………地元企業1,200社(有効回答1,182社)
 調査時期……………2023年3月
 調査対象期間…2023年1月～3月期 当期の実績(2022年10月～12月期との比較)
 2023年4月～6月期 来期の見通し(2023年1月～3月期との比較)
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例)良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1)売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2)業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

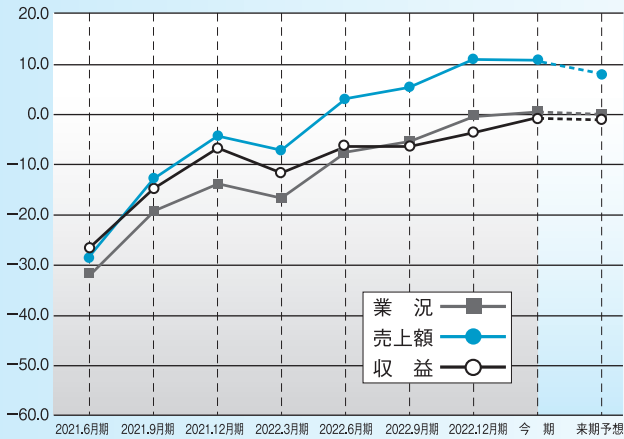
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	37	49	47	22	18	18	8	199	16.8%
金属機械工業	58	56	36	22	16	6	6	200	16.9%
卸 売 業	47	27	22	13	5	2	2	118	10.0%
小 売 業	81	31	11	8	2	10	4	147	12.4%
サービス業	59	39	28	19	22	20	10	197	16.7%
建 設 業	60	61	50	14	7	5	2	199	16.8%
不 動 産 業	77	30	10	1	3	—	1	122	10.3%
合 計	419	293	204	99	73	61	33	1,182	100.0%
(構成比)	35.4%	24.8%	17.3%	8.4%	6.2%	5.2%	2.8%	100.0%	—

*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

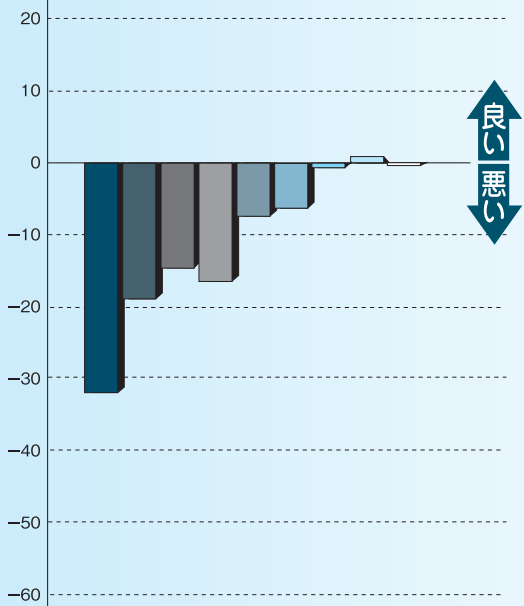
■ 業況・売上額・収益



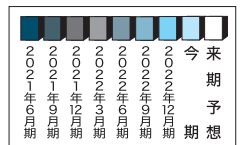
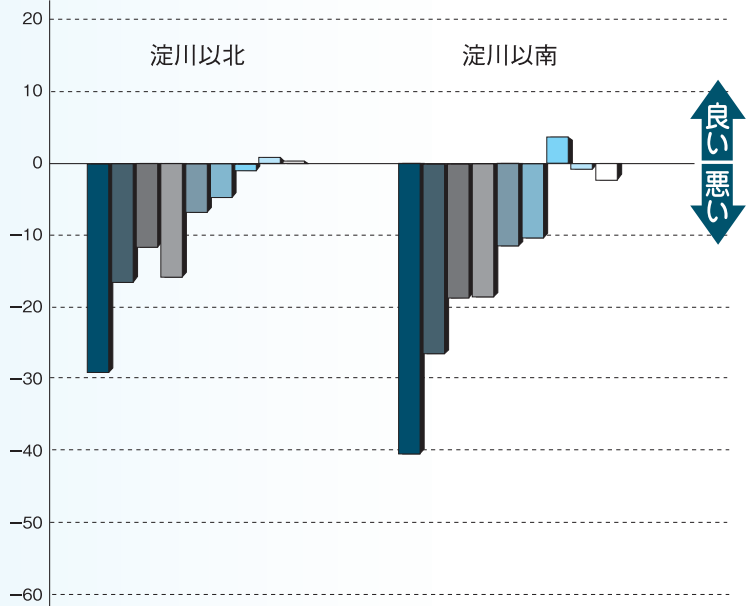
■ 全業種総合 DI値の推移

	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	2022.9月期	2022.12月期	今期	来期予想
業況	-31.7	-18.9	-13.4	-16.3	-7.1	-5.6	-0.3	0.5	-0.1
売上額	-28.1	-12.9	-4.4	-7.4	3.4	5.5	11.5	11.3	8.2
受注残	-23.3	-3.4	2.2	0.2	8.0	9.8	12.9	11.0	8.2
施工高	-17.5	-2.5	7.1	0.0	10.0	10.5	21.0	17.1	16.6
収益	-26.5	-14.5	-6.7	-11.8	-6.1	-6.1	-2.6	-0.9	-1.4
販売価格	-3.0	4.7	11.0	15.7	29.7	31.4	33.1	33.2	29.9
原材料・仕入価格	12.6	29.6	42.0	50.0	61.5	60.0	59.8	55.4	50.8
在庫	-4.1	-4.8	-8.7	-8.2	-6.9	-4.8	-4.0	-1.4	-3.0
資金繰り	-5.0	-0.8	0.0	-1.8	1.4	0.8	-1.7	-1.5	-2.2
従業員残業時間	-13.7	4.3	6.3	5.3	7.3	5.9	7.7	6.7	4.9
従業員人手	-4.9	-8.0	-10.9	-12.0	-12.6	-11.3	-12.7	-12.5	-12.7
設備状況	-4.1	-4.6	-4.4	-5.1	-4.0	-3.6	-3.7	-3.8	-6.0

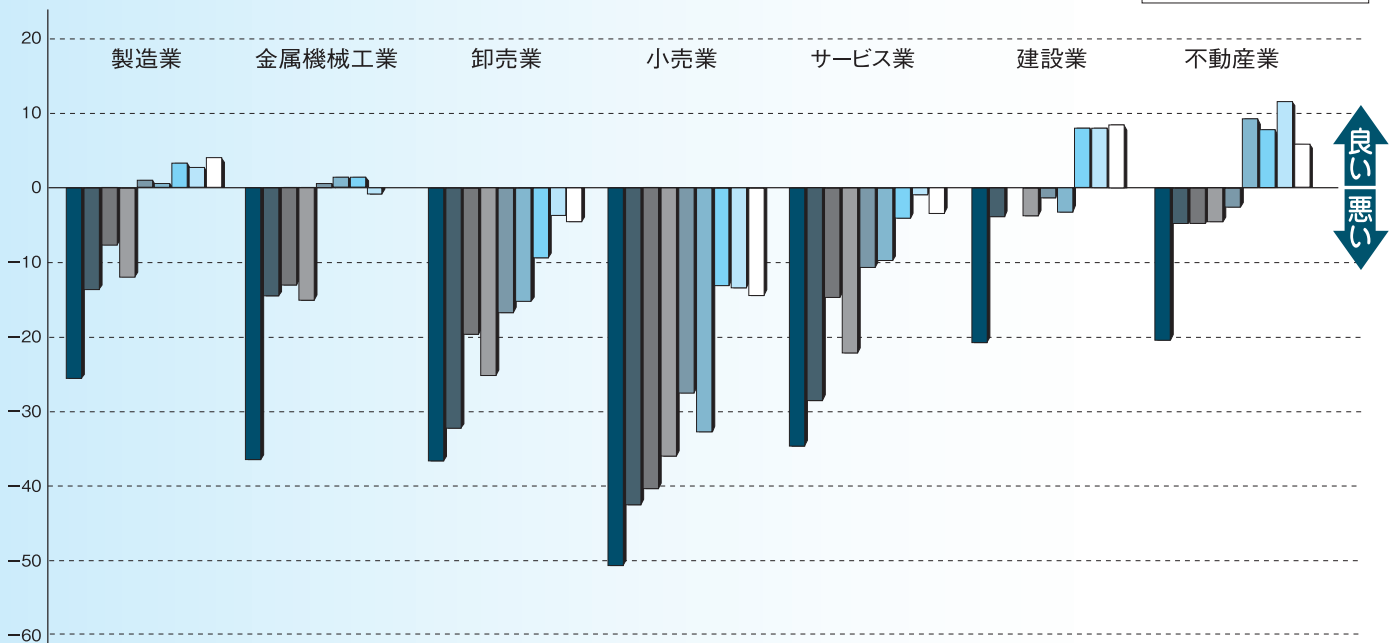
■ 全体業況判断DI



■ 地区別業況判断DI



■ 業種別業況判断DI



業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期比0.8ポイント増のほぼ横ばい～

2023年1月～3月期、全業種の業況判断(DI)は0.5(前期比0.8ポイント増)とほぼ横ばい。

来期予想の業況判断▲0.1は、水準としてはゆっくりとした低下状況が続くものの、ほぼ横ばいの見通し。

《業種別》— 卸売業・不動産業は改善、サービス業は小幅に改善する。

建設業は横ばい、製造業・小売業はほぼ横ばい。金属機械工業はわずかに悪化した —

業種別にみると、「卸売業」▲3.4(前期比5.8ポイント増)の改善、「不動産業」は11.6(同4.6ポイント増)の改善。

「建設業」7.5(変動なし)の横ばい。「製造業」2.5(同0.5ポイント減)のほぼ横ばい、「小売業」▲13.6(同0.7ポイント減)のほぼ横ばい。

「金属機械工業」は▲1.0(同2.5ポイント減)と小幅に悪化した。

～淀川以北地域は小幅に改善、淀川以南地域は悪化した～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は0.7(前期比1.5ポイント増)の小幅な改善、淀川以南地域は▲0.7(同4.4ポイント減)と悪化した。淀川以北地域の業種別では、不動産業(前期▲1.0→今期12.4)と卸売業(同▲10.3→同0.0)は大幅に改善。サービス業(同▲5.1→同▲1.3)は小幅に改善。製造業は(同4.8→同5.6)とほぼ横ばいとなった。小売業(同▲16.5→同▲17.7)は小幅に悪化、金属機械工業(同4.5→同0.6)と建設業(同9.3→同5.0)は悪化した。

淀川以南地域の業況判断(DI)では、建設業(同▲5.6→同13.9)はかなり大幅に改善となった。小売業(同0.0→同0.0)は横ばい。

製造業(同▲1.9→同▲5.6)とサービス業(同4.9→0.0)、そして卸売業(同▲2.6→同▲10.5)は悪化となり、金属機械工業(同4.9→同▲7.3)と不動産業(同▲33.3→同9.4)は大きく悪化した。

来期の業況判断予想は、淀川以北地域(0.2)、淀川以南地域(▲2.2)の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額はほぼ横ばい、収益はわずかに改善～

売上額判断(DI)は11.3(前期比0.2ポイント減)とほぼ横ばい、収益判断(DI)は▲0.9(同1.7ポイント増)とわずかに改善した。

来期予想の売上額判断(8.2)、収益判断(▲1.4)の見通し。

販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい、原材料(仕入)価格は改善～

販売価格判断(DI)は33.2(前期比0.1ポイント増)で横ばい、原材料・仕入価格判断(DI)は55.4(同4.4ポイント減)で改善となった。

来期予想の販売価格判断(29.9)は悪化の見通し。原材料・仕入価格判断(50.8)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手不足ともほぼ横ばい～

資金繰り判断(DI)は▲1.5(前期比0.2ポイント増)のほぼ横ばい。人手判断(DI)は▲12.5(同0.2ポイント増)とのほぼ横ばい。

人手判断の内訳は、不足とする企業の割合は前期14.0%→今期13.0%、人手過剰とする企業の割合も同1.3%→同1.0%、適正とした企業の割合は同84.6%→同86.0%と、それぞれほぼ横ばいとなった。

来期予想の資金繰り判断(▲2.2)はほぼ横ばい、人手判断(▲12.7)はほぼ横ばいの見通し。

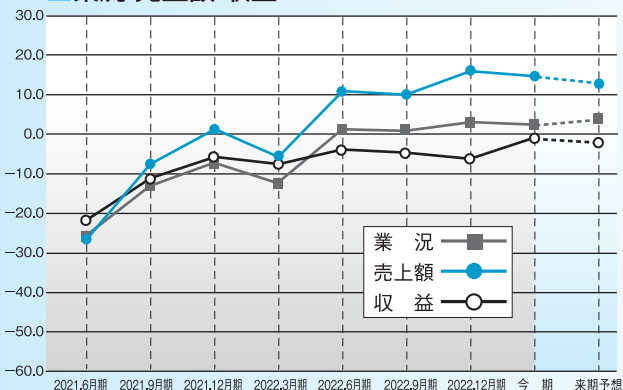
経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	売上の停滞・減少 41.5%	原材料高 38.5%	同業者間の競争の激化 28.5%	利幅の縮小 23.0%	人手不足 17.0%
金属機械工業	売上の停滞・減少 80.5%	同業者間の競争の激化 37.5%	原材料高 28.0%	人手不足 24.5%	利幅の縮小 8.5%
卸売業	売上の停滞・減少 46.7%	同業者間の競争の激化 42.5%	利幅の縮小 21.7%	輸入商品との競争の激化 13.3%	仕入先からの値上げ要請 13.3%
小売業	売上の停滞・減少 48.7%	大型店との競争の激化 24.0%	同業者間の競争の激化 23.3%	商店街の集客力の低下 19.3%	利幅の縮小 15.3%
サービス業	売上の停滞・減少 83.5%	同業者間の競争の激化 41.0%	人手不足 22.5%	人件費の増加 12.5%	利幅の縮小 12.0%
建設業	売上の停滞・減少 62.0%	同業者間の競争の激化 38.5%	人手不足 36.0%	材料価格の上昇 29.5%	利幅の縮小 17.5%
不動産業	売上の停滞・減少 57.7%	同業者間の競争の激化 47.7%	商品物件の不足 40.8%	商品物件の高騰 28.5%	大手企業との競争の激化 24.6%

当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 53.5%	経費を削減する 44.0%	情報力を強化する 20.5%	人材を確保する 19.0%	新製品・技術を開発する 16.5%
金属機械工業	販路を広げる 57.0%	経費を削減する 40.0%	人材を確保する 16.5%	情報力を強化する 14.5%	新製品・技術を開発する 12.0%
卸売業	販路を広げる 77.5%	経費を削減する 49.2%	品揃えを充実する 25.0%	情報力を強化する 20.8%	提携先を見つける 13.3%
小売業	経費を削減する 52.7%	宣伝・広告を強化する 38.0%	品揃えを充実する 36.7%	売れ筋商品を取り扱う 24.7%	仕入先を開拓・選別する 14.0%
サービス業	経費を削減する 53.5%	販路を広げる 52.0%	宣伝・広告を強化する 26.0%	人材を確保する 14.0%	教育訓練を強化する 9.5%
建設業	販路を広げる 52.5%	経費を削減する 48.5%	人材を確保する 28.0%	情報力を強化する 24.0%	技術力を高める 14.0%
不動産業	情報力を強化する 52.3%	販路を広げる 46.9%	宣伝・広告を強化する 34.6%	経費を削減する 30.8%	不動産の有効利用を図る 6.9%

業況・売上額・収益



製造業 DI値の推移

	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	2022.9月期	2022.12月期	今期	来期予想
業況	-25.0	-13.5	-7.5	-12.0	1.0	0.5	3.0	2.5	4.0
売上額	-25.5	-7.0	1.0	-5.0	10.5	10.0	16.0	15.0	13.0
受注残	-19.5	-1.0	5.0	0.5	5.0	10.0	13.5	10.0	8.0
収益	-21.0	-11.0	-5.5	-7.0	-3.5	-4.0	-5.6	-1.0	-2.0
販売価格	-5.0	2.5	10.6	18.5	33.5	37.0	34.2	37.0	37.0
原材料価格	11.0	31.0	51.3	59.0	76.9	73.5	67.5	62.5	60.5
在庫	-1.5	-1.5	-6.0	-3.0	-2.0	0.0	0.5	0.0	-1.5
資金繰り	1.5	2.5	4.0	1.0	6.6	5.0	5.1	3.5	1.5
従業員残業時間	-10.5	-2.0	-0.5	2.0	7.5	4.1	6.1	6.1	4.6
従業員人手	-6.5	-13.2	-15.4	-17.8	-12.6	-17.9	-17.9	-15.3	-14.3
設備状況	-8.6	-4.6	-4.1	-6.6	-4.5	-3.1	-7.1	-6.1	-5.6

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期比▲0.5ポイント減とほぼ横ばい～

2023年1月～3月期、製造業の業況判断(DI)は2.5(前期比0.5ポイント減)とほぼ横ばい。
 最多納入先別にみる業況判断(DI)では、「問屋・商社向け」(前期7.1→今期13.3)は改善、
 「大メーカー向け」(同24.4→同26.7)と「小売・最終需要家向け」(同▲20.0→同▲17.6)は小幅な改善。
 「中小メーカー・中間業者向け」(同▲2.8→同▲7.4)は小幅に悪化した。
 来期予想の業況判断(4.0)は小幅な改善の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	30	45	108	17
良い～悪い	5	4	12	-8	-3
DI	2.5	13.3	26.7	-7.4	-17.6

売上額・収益・受注残の動き

～売上額はほぼ横ばい、収益は改善、受注残は悪化～

売上額判断(DI)は15.0(前期比1.0ポイント減)とほぼ横ばい、収益判断(DI)は▲1.0(同4.6ポイント増)と改善。
 受注残判断(DI)は10.0(同3.5ポイント減)と悪化。
 来期予想は、受注残判断(8.0)、売上額判断(13.0)、そして収益判断(▲2.0)共に小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格、原材料価格はともに改善～

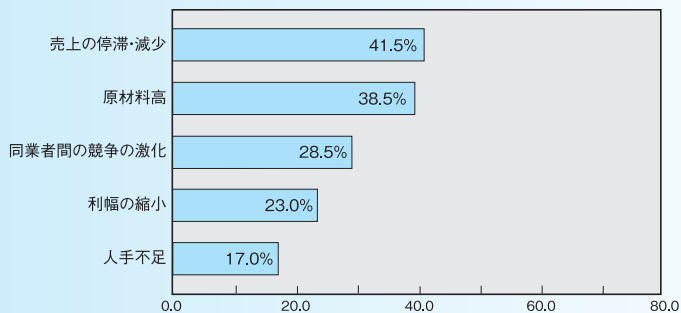
販売価格判断(DI)は37.0(前期比2.8ポイント増)、原材料価格判断(DI)は62.5(同5.0ポイント増)と、いずれも改善した。
 来期予想の販売価格判断(37.0)(前期比変動なし)で横ばい。原材料価格判断(60.5)で小幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

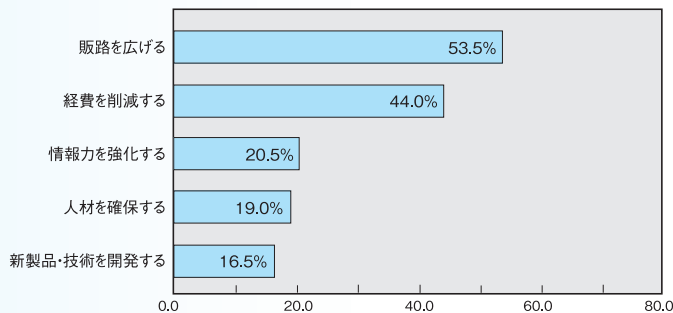
～資金繰りは小幅に悪化、人手については小幅に改善～

資金繰り判断(DI)は3.5(前期比1.6ポイント減)と小幅に悪化。
 人手判断(DI)は▲15.3(同2.6ポイント増)。人手判断の内訳は、不足とした企業は前期19.4%→今期15.8%、人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同0.5%、適正とした企業の割合は同79.1%→同83.7%と、わずかに改善した。
 来期予想の資金繰り判断(1.5)は小幅に悪化、人手判断(▲14.3)はほぼ横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

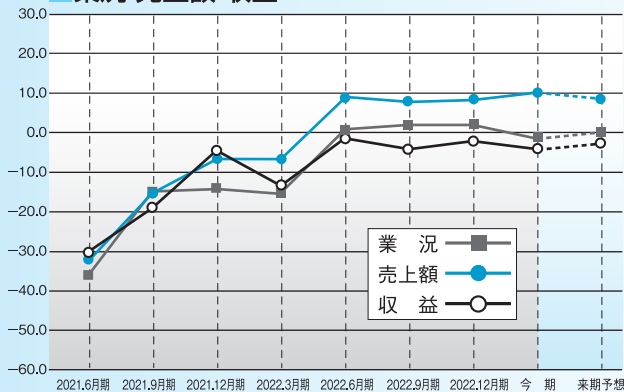


企業のコメント



- 材料費高騰も問題なく価格転嫁できており、増収となっている。(機械部品)
- 主取引先からの受注が増加で好調。決算が期待できる。(製造業)
- 前年度に比べ売上回復傾向にあるとのこと。利益率の増加が課題。(回線製造)
- 材料不足が継続しており、受注があっても取り掛かれないことが増えている。(自動車)
- 材料高の影響大きい。為替レートも予想以上に影響を及ぼしている。(包装業)
- 原材料高に歯止めが利かず利益圧迫。今後の情勢も読みにくい。(印刷)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	2022.9月期	2022.12月期	今期	来期予想
業況	-36.6	-14.2	-13.3	-15.0	0.5	1.5	1.5	-1.0	0.0
売上額	-32.0	-14.3	-6.6	-6.5	9.5	8.0	8.1	10.0	8.5
受注残	-31.0	-10.2	-6.1	-2.5	14.1	11.6	9.1	9.5	7.0
収益	-30.0	-19.3	-4.1	-13.0	-1.0	-4.5	-2.5	-4.0	-3.0
販売価格	-1.0	5.6	9.7	14.0	36.2	30.5	31.3	37.5	32.5
原材料価格	22.0	40.6	53.6	60.0	76.9	72.0	62.9	60.0	52.0
在庫	-2.0	-1.0	-5.1	-3.5	-2.0	0.0	0.0	1.5	0.5
資金繰り	1.0	7.6	6.1	6.0	6.6	3.0	2.0	4.5	4.5
従業員残業時間	-13.5	-8.6	-0.5	3.0	7.5	3.0	6.6	4.0	2.5
従業員人手	-4.0	-8.1	-12.2	-12.5	-12.6	-10.0	-10.6	-16.5	-17.6
設備状況	-8.0	-7.1	-5.1	-8.0	-4.5	-4.5	-3.5	-5.0	-6.5

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は小幅に悪化した～

2023年1月～3月期、金属機械工業の業況判断(DI)は▲1.0(前期比2.5ポイント減)と小幅に悪化した。

最多納入先別の業況判断(DI)は、「小売・最終需要家向け」(同▲16.7→同20.0)はかなり大幅な改善、「問屋・商社向け」(前期0.0→今期13.3)は大幅に改善、「大メーカー向け」(前期16.9→今期15.6)は小幅に悪化、「中小メーカー向け」(同▲6.0→同▲12.9)は悪化した。

来期予想の業況判断(0.0)はわずかな改善見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	15	64	116	5
良い～悪い	-2	2	10	-15	1
DI	-1.0	13.3	15.6	-12.9	20.0

売上額・収益・受注の動き

～売上額は小幅に改善、受注残はほぼ横ばい、収益は小幅に悪化した～

売上額判断(DI)は10.0(前期比1.9ポイント増)と小幅に改善、受注残判断(DI)は9.5(同0.4増)のほぼ横ばい、収益判断(DI)は▲4.0(同1.5ポイント減)と小幅に悪化した。

来期予想の売上額判断(8.5)は小幅に悪化、収益判断(▲3.0)とわずかに改善、受注残判断(7.0)と小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格、原材料価格はともに改善～

販売価格判断(DI)は37.5(前期比6.2ポイント増)と改善した。原材料価格判断(DI)60.0(同2.9ポイント減)と改善した。

来期予想の販売価格判断(32.5)は悪化、原材料価格判断(52.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

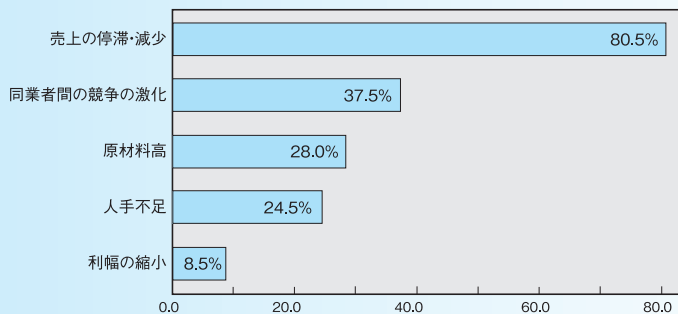
～資金繰りは小幅に改善、人手については悪化～

資金繰り判断(DI)は4.5(前期比2.5ポイント増)と小幅に改善。

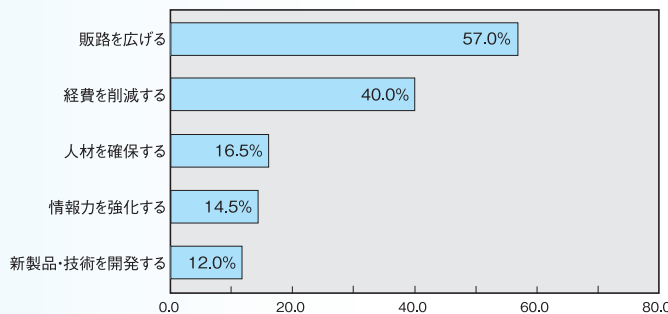
人手判断(DI)は▲16.5(同5.9ポイント減)と悪化した。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期87.4%→今期82.5%と減少、人手過剰とした企業の割合は同1.0%→同0.5%と減少、不足とした企業の割合は同11.6%→同17.0%とわずかに増加した。

来期予想の資金繰り判断(4.5)と横ばい、人手判断(▲17.6)はわずかに悪化の見通し。

経営上の問題点



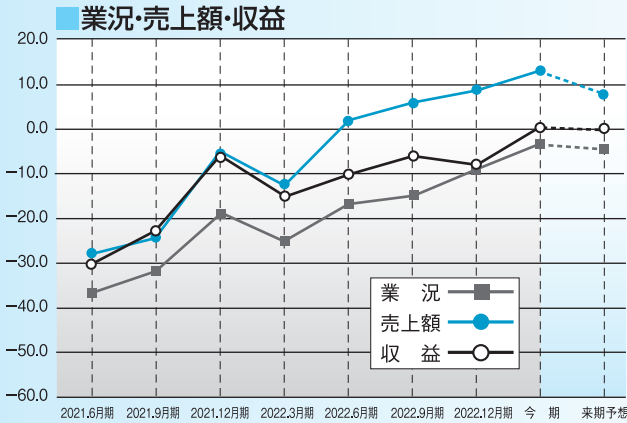
当面の重点経営施策



企業のコメント



- 材料高騰の影響はあるが、無借金経営であり業況は問題なし。(省力化機械)
- 受注安定しておりコロナ等の影響は少ない様子。(工事用機械)
- 業況良好に推移しているが原材料高騰により利幅縮小傾向。(金網)
- 受注安定しており売上は維持しているが、部品が入手しづらい。(基礎工事関連)
- 受注量としては変わらないが、人材の確保に苦難している。(金属加工業)
- 部品供給が止まっているものもあり、生産が停滞傾向にある。(計器類製造)



卸売業 DI値の推移

	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	2022.9	2022.12	今期	来期予想
業況	-36.6	-31.7	-19.2	-25.0	-16.7	-15.0	-9.2	-3.4	-4.2
売上額	-27.5	-24.2	-5.0	-12.5	1.7	6.7	9.2	13.6	7.6
収益	-30.0	-22.7	-5.8	-15.0	-10.0	-5.8	-8.4	0.8	0.0
販売価格	-3.4	9.2	15.0	20.8	29.2	35.8	32.5	34.7	30.5
仕入価格	10.9	25.0	37.5	41.7	50.0	53.3	55.8	49.2	42.4
在庫	5.0	2.5	-1.7	-2.5	-0.8	1.7	3.4	5.9	4.2
資金繰り	-5.8	-9.2	-0.8	-8.3	-9.2	-6.7	-12.5	-9.3	-9.3
従業員残業時間	-14.3	-7.5	-2.5	-3.3	0.8	2.5	3.3	-1.7	-1.7
従業員人手	-2.5	-0.8	-5.0	-5.0	-6.7	-3.3	-7.6	-5.9	-7.6
設備状況	1.7	-0.8	0.0	0.8	-2.5	-2.5	-1.7	0.8	-6.8

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期比5.8ポイント増と改善～

2023年1月～3月期、卸売業の業況判断(DI)は▲3.4(前期比5.8ポイント増)と改善。
 最多納入先別の業況判断(DI)は、「大メーカー向け」(前期5.9→今期11.1)、
 「中小メーカー向け」(同▲9.4→同▲2.1)、「問屋・商社向け」(同▲12.5→同▲8.0)、「小売業者向け」(同▲15.4→同▲10.7)と最多納入先は改善した。
 来期予想の業況判断(▲4.2)はほぼ横ばいの見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	118	25	18	47	28
良い～悪い	-4	-2	2	-1	-3
DI	-3.4	-8.0	11.1	-2.1	-10.7

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益も改善～

売上額判断(DI)は13.6(前期比4.4ポイント増)、収益判断(DI)は0.8(同9.2ポイント増)と、ともに改善した。
 来期予想の売上額判断(7.6)と悪化、収益判断(0.0)とほぼ横ばいの見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は小幅な改善、仕入価格も改善～

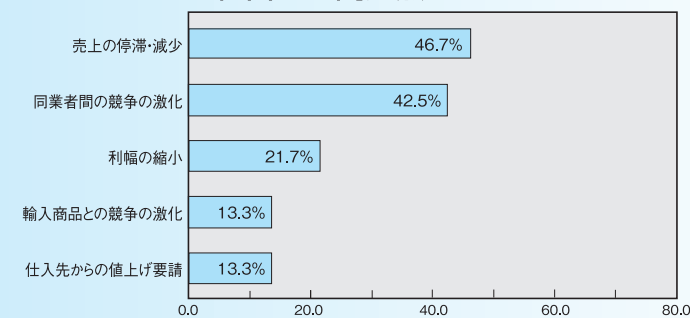
販売価格判断(DI)は34.7(前期比2.2ポイント増)。仕入価格判断(DI)は49.2(同6.6ポイント減)共に改善した。
 来期予想の販売価格判断(30.5)と悪化、仕入価格判断(42.4)と改善。

資金繰り・雇用面の動き

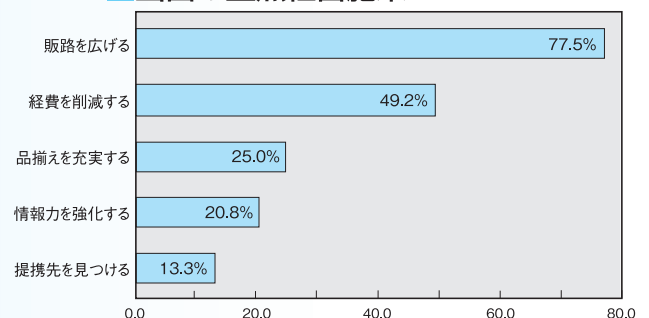
～資金繰りは改善、人手についても小幅に改善～

資金繰り判断(DI)は▲9.3(前期比3.2ポイント増)と改善。人手判断(DI)は▲5.9(同1.7ポイント増)と小幅に改善した。
 人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期92.4%→今期90.7%と減少、人手過剰とした企業の割合は同0.0%→同1.7%となる。
 不足とした企業の割合は同7.6%→同7.6%と横ばい。
 来期予想の資金繰り判断(▲9.3)は横ばい、人手判断(▲7.6)は、ほぼ横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

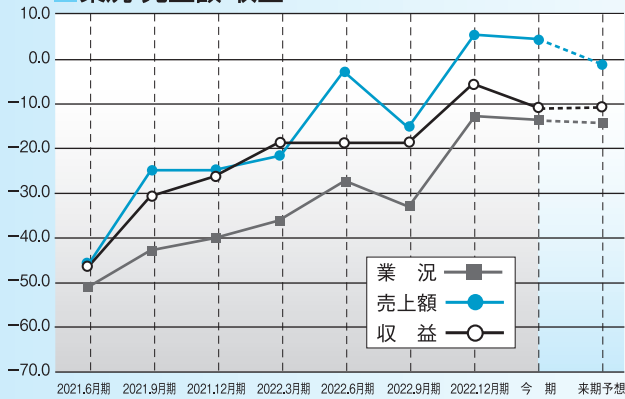


企業のコメント



- 海外からの観光客が回復傾向にあり売上も戻りつつある。(国内外土産)
- 前期売上減少しているものの、今期は回復傾向であり売上等増加。(鋼材)
- 春夏物の受注については前期比微増も、粗利は低水準。(婦人服)
- 仕入高騰があったが、タイミングを見て販売価格転嫁でき収益力懸念なし(土木資材)
- 売上利益ともに苦戦しており、回復見込立っていない。(清掃用品)
- コロナの影響で、未だ業況改善していない状況である。(事務用品)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	2022.9	2022.12	今期	来期予想
業況	-51.3	-42.7	-40.0	-36.0	-27.3	-32.7	-12.9	-13.6	-14.2
売上額	-46.6	-24.7	-24.7	-21.3	-3.3	-15.3	6.1	4.7	-0.7
収益	-46.6	-30.7	-26.2	-18.7	-18.7	-18.7	-5.4	-10.8	-10.1
販売価格	-6.7	-0.7	8.1	14.0	28.0	26.7	34.7	34.5	27.7
仕入価格	-2.0	9.3	22.7	32.7	48.3	50.0	57.1	54.1	52.0
在庫	1.3	2.7	1.3	2.0	0.7	0.0	2.0	1.4	1.4
資金繰り	-24.0	-14.0	-17.3	-16.7	-5.3	-13.3	-12.2	-9.5	-10.8
従業員残業時間	-20.0	-14.0	-14.0	-5.3	-0.7	0.0	0.0	2.0	0.7
従業員人手	3.3	-3.3	-4.0	-6.0	-5.3	-4.0	-1.4	-5.5	-6.8
設備状況	-4.7	-4.7	-5.3	-2.7	-2.0	-1.3	-0.7	-2.0	-2.7

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期比0.7ポイント減のほぼ横ばい～

2023年1月～3月期、小売業の業況判断(DI)は▲13.6(前期比0.7ポイント減)とほぼ横ばい。
 店舗立地地域別の業況判断(DI)は、「住宅地隣接商店街」(前期▲26.1→今期▲15.1)は大幅に改善。「駅周辺商店街」(同▲8.3→同▲12.1)は悪化、「その他」(同▲4.9→同▲13.9)は大きく悪化した。
 来期予想の業況判断(▲14.2)はほぼ横ばいの見通し。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	その他
全体	147	58	53	36
良い～悪い	-20	-7	-8	-5
DI	-13.6	-12.1	-15.1	-13.9

売上額・収益の動き

～売上額はわずかに悪化、収益も悪化した～

売上額判断(DI)は4.7(前期比1.4ポイント減)とわずかに悪化。収益判断(DI)は▲10.8(同、5.4ポイント減)と悪化した。
 来期予想の売上額判断(▲0.7)は悪化の見通し、収益判断(▲10.1)はほぼ横ばいの見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい。仕入価格は小幅に改善した。～

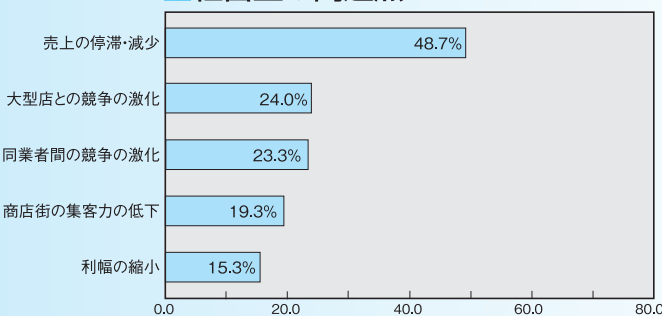
販売価格判断(DI)は34.5(前期比0.2ポイント減)とほぼ横ばいとなった。仕入価格判断(DI)は54.1(同3.0ポイント減)とわずかに改善した。
 来期予想の販売価格判断(27.7)と悪化、仕入価格判断(52.0)と小幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

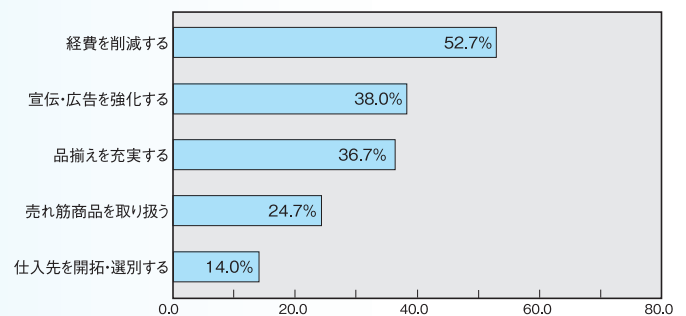
～資金繰りは小幅に改善、人手については悪化～

資金繰り判断(DI)は▲9.5(前期比2.7ポイント増)と小幅に改善。
 人手判断(DI)は▲5.5(同4.1ポイント減)と悪化。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期4.1%→今期2.1%とわずかに減少、不足とした企業の割合は同5.4%→同7.5%とわずかに増加。適正とした企業は同90.5%→同90.4%とほぼ横ばいであった。
 来期予想の資金繰り判断(▲10.8)はわずかに悪化、人手判断(▲6.8)はわずかに悪化の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

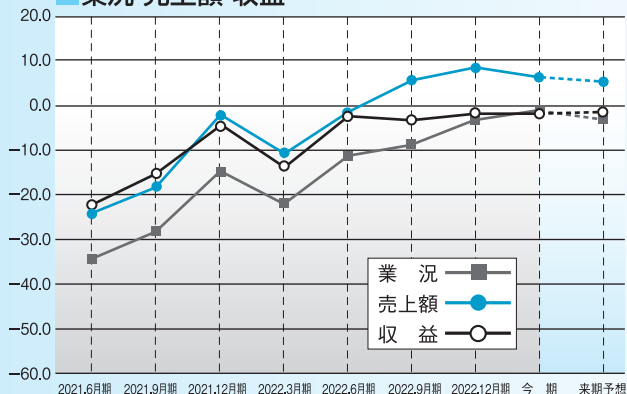


企業のコメント



- ・店舗改装後、来客数は多くなっており昨年と比べると売上は増加傾向。(洋菓子)
- ・商店街の和洋菓子店。近隣住民に人気で値上げしても売れ行き変わらず。(和洋菓子)
- ・仕入価格高騰しており販売価格の値上げを実施、転嫁させる。(バイク)
- ・旅行者が動き始めスーツケースの売上は回復傾向だが業況厳しい。(日用品雑貨)
- ・昨年に比べれば顧客の入りも増え売上増加。経営としてはまだ業況良くない(居酒屋)
- ・原材料の高騰により、利益が大幅に減少している。(お好み焼き)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	2022.9	2022.12	今期	来期予想
業況	-34.5	-27.9	-14.9	-22.1	-10.6	-9.2	-3.5	-1.0	-3.0
売上額	-24.0	-18.2	-2.6	-10.5	-1.0	5.5	8.0	6.1	5.1
収益	-22.5	-15.2	-4.1	-13.6	-2.0	-3.0	-1.5	-1.5	-1.0
料金価格	0.0	1.0	2.6	6.0	16.6	17.6	19.1	17.2	15.2
材料価格	2.0	7.7	18.7	25.5	33.5	37.7	39.2	36.9	32.3
資金繰り	-10.0	-3.0	0.5	0.0	2.0	-0.5	-2.0	-3.5	-4.0
従業員残業時間	-13.5	-9.1	-1.0	-3.5	4.5	-0.5	4.5	5.1	3.0
従業員人手	-5.5	-9.1	-10.7	-9.5	-16.1	-13.6	-17.6	-15.2	-14.2
設備状況	-1.0	-5.1	-6.6	-6.5	-6.5	-5.5	-4.5	-4.5	-7.1

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期比2.5ポイント増の小幅な改善～

2023年1月～3月期、サービス業の業況判断(DI)は▲1.0(前期比2.5ポイント増)と小幅な改善。
来期予想の業況判断(▲3.0)は小幅に悪化の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は小幅な悪化、収益は横ばい～

売上額判断(DI)は6.1(前期比1.9ポイント減)と小幅な悪化、収益判断(DI)は▲1.5(同変動なし)と横ばいとなった。
来期予想の売上額判断(5.1)はわずかに悪化、収益判断(▲1.0)はほぼ横ばいの見通し。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は小幅な悪化、材料価格は小幅な改善～

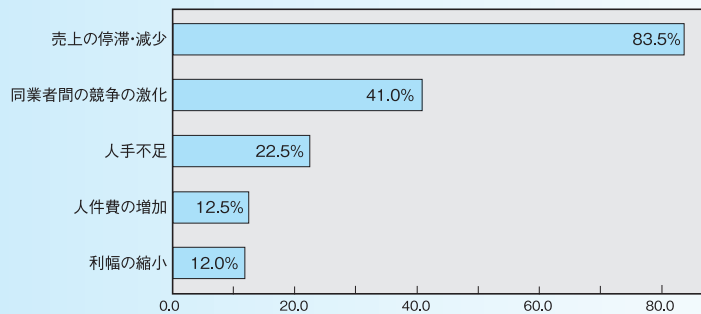
料金価格判断(DI)は17.2(前期比1.9ポイント減)と小幅な悪化。材料価格判断(DI)は36.9(同2.3ポイント減)と小幅な改善。
来期予想の料金価格判断(15.2)は小幅に悪化、材料価格判断(32.3)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

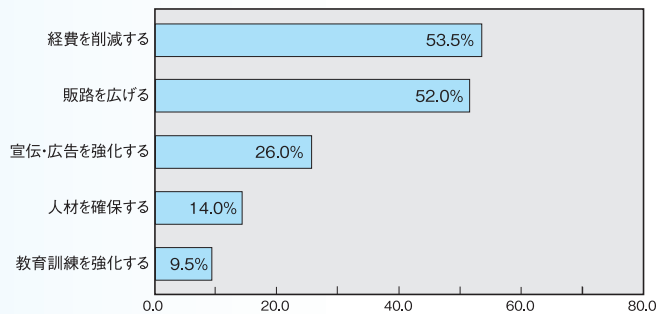
～資金繰りは小幅な悪化、人手は小幅な改善～

資金繰り判断(DI)は▲3.5(前期比1.5ポイント減)と小幅な悪化。
人手判断(DI)は▲15.2(同2.4ポイント増)と小幅な改善。人手判断の内訳は、人手不足とした企業の割合は前期19.1%→今期16.7%とわずかに減少、人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同1.5%と横ばい、適正とした企業の割合は同79.4%→同81.8%とわずかに増加した。
来期予想の資金繰り判断(▲4.0)はほぼ横ばい、人手判断(▲14.2)はともにほぼ横ばい。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

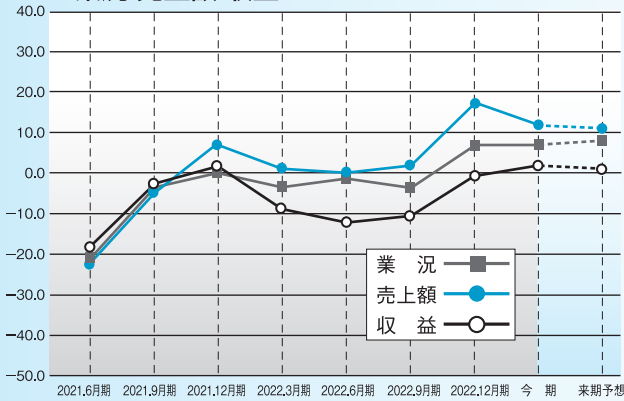


企業のコメント



- ・新規出店した店舗も軌道に乗ってきており、売上は増加傾向(美容)
- ・売上は現状安定。原材料の高騰や人材の確保が現状の課題である。(印刷物)
- ・受注先からの安定した依頼があり、今後も売上は見込むことができる。(保険業)
- ・自動車販売は不調であるも、整備業が好調のため大きな影響なし。(自動車整備)
- ・訪問看護、デイサービス共に利用者減。業況非常に厳しい。(訪問看護)
- ・材料費高騰もあるが、光熱費高騰による利益圧縮がこたえている。(美容院)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	2022.9	2022.12	今期	来期予想
業況	-20.5	-3.6	0.0	-3.5	-1.5	-3.0	7.5	7.5	8.0
売上額	-22.5	-4.0	7.6	1.0	0.0	2.0	17.5	12.1	10.6
受注残	-19.5	1.0	7.6	2.5	5.0	8.0	16.0	13.6	9.6
施工高	-17.5	-2.5	7.1	0.0	10.0	10.5	21.0	17.1	16.6
収益	-18.0	-3.0	1.5	-9.5	-12.1	-10.5	-0.5	2.0	1.0
請負価格	-5.5	5.1	11.1	14.0	26.0	27.0	35.5	30.7	26.6
原材料仕入価格	18.5	44.4	57.6	65.5	80.0	69.0	73.0	68.3	62.8
在庫	-3.0	-2.0	-6.1	-11.5	-7.5	-6.5	-2.5	-2.0	-3.5
資金繰り	-1.5	2.5	2.0	0.5	0.5	2.0	-0.5	-2.5	-2.0
従業員残業時間	-11.0	-6.6	5.6	2.5	4.0	3.0	6.0	6.0	3.5
従業員人手	-13.0	-14.2	-17.3	-22.5	-20.0	-19.0	-21.0	-18.6	-18.1
設備状況	-2.0	-4.0	-3.6	-4.5	-2.5	-3.5	-3.0	-3.5	-6.5

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は前期と変動なく横ばい～

2023年1月～3月期、建設業の業況判断(DI)は7.5(前期比変動なし)と横ばい。
 請負先別の業況(DI)は、「大企業向け」(前期8.9→今期21.8)は大幅に改善、「官公庁向け」(同28.6→同29.4)はほぼ横ばい。「中小企業向け」(同3.3→同▲1.0)は悪化、「個人向け」(同▲17.6→同▲42.9)は厳しい悪化となった。
 来期予想の業況判断(8.0)は、ほぼ横ばいの見通し。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	199	34	55	96	14
良い～悪い	15	10	12	-1	-6
DI	7.5	29.4	21.8	-1.0	-42.9

売上額・収益・受注残の動き

～売上額は悪化、収益は小幅な改善。受注残については小幅な悪化～

売上額判断(DI)は12.1(前期比5.4ポイント減)と悪化した。受注残判断(DI)は13.6(同2.4ポイント減)と小幅な悪化。
 収益判断(DI)は2.0(同2.5ポイント増)と小幅に改善した。
 来期予想の売上額判断(10.6)は小幅に悪化、収益判断(1.0)はわずかに悪化の見通し。受注残判断(9.6)については悪化の見通し。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は悪化、原材料価格は改善した～

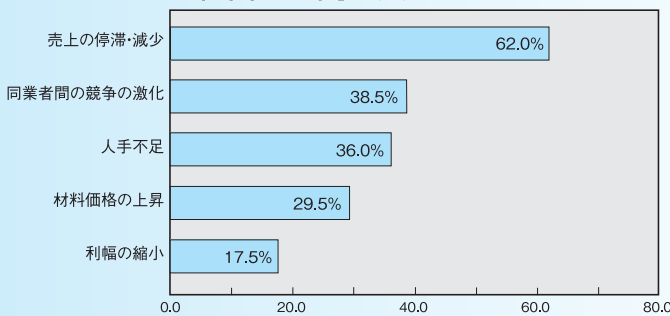
請負価格判断(DI)は30.7(前期比4.8ポイント減)と悪化。一方、原材料価格判断(DI)は68.3(同4.7ポイント減)と改善した。
 来期予想の請負価格判断(26.6)は悪化、原材料価格判断(62.8)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

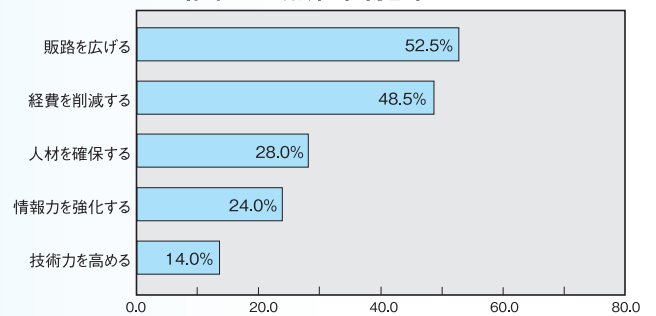
～資金繰りは小幅な悪化、人手はほぼ横ばい～

資金繰り判断(DI)は▲2.5(前期比2.0ポイント減)と小幅に悪化。
 人手判断(DI)は▲18.6(前期比2.4ポイント増)と小幅に改善。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.5%→今期0.0%とほぼ横ばい。適正とした企業の割合は同78.0%→同81.4%とわずかに増加。また、人手不足とした企業の割合は同21.5%→同18.6%とわずかに減少した。
 来期予想の資金繰り判断(▲2.0)、人手判断(▲18.1)はともにほぼ横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

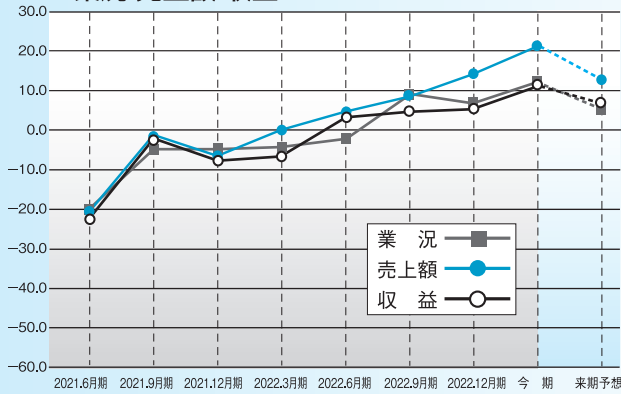


企業のコメント



- ・現状、業況に不安はない。資金繰りについても問題なし。(防水工事)
- ・コロナ収束しつつあり、現場が動いているため受注増加。(内装工事)
- ・資材の高騰などに注視し、事業運営していく。(建築工事)
- ・仕入価格上昇も価格転嫁できておりそこまで利益率は低下していない。(電気工事)
- ・受注はまだまだ回復せず厳しい状況。(電気工事業)
- ・原材料高騰が大きく響き受注減少。今後の見込みも不安が続く。(防水工事)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	2022.9	2022.12	今期	来期予想
業況	-20.0	-4.7	-3.9	-4.6	-2.3	9.3	7.0	11.6	5.7
売上額	-20.7	-1.5	-5.4	0.0	4.6	9.2	14.1	20.5	12.3
収益	-22.3	-2.4	-6.2	-6.9	3.1	4.6	5.5	10.7	7.4
販売価格	0.0	14.1	25.4	28.5	42.3	51.5	50.4	46.7	45.1
仕入価格	26.2	48.8	48.5	62.3	60.8	60.8	61.2	53.3	50.0
在庫	-27.7	-35.4	-40.0	-35.4	-33.1	-29.2	-33.3	-18.2	-23.0
資金繰り	0.8	-4.7	3.1	-0.8	4.6	4.6	3.1	2.5	0.8
従業員残業時間	-15.4	-3.8	-3.1	-6.2	1.5	2.3	3.9	4.1	1.6
従業員人手	-1.5	-0.8	-6.2	-3.8	-0.8	-3.9	-5.5	-2.4	-3.3

業況について

2023年1月～3月期 ～業況は改善した～

2023年1月～3月期、不動産業の業況判断(DI)は11.6(前期比4.6ポイント増)と改善した。業種内容別業況では、「仲介管理」(前期7.7→今期20.8)は大幅に改善、「建売」(同4.8→同9.1)は改善、「賃貸」(同11.1→同11.8)はほぼ横ばいの動きで、全項目で改善した。来期予想の業況判断(5.7)は悪化の見通し。

◎業種内容別業況について(当期)

	全体	賃貸	建売	仲介管理
全体	118	17	77	24
良い～悪い	14	2	7	5
DI	11.9	11.8	9.1	20.8

売上額・収益の動き

～売上額、収益はともに改善～

売上額判断(DI)は20.5(前期比6.4ポイント増)と改善、収益判断(DI)は10.7(同5.2ポイント増)と改善した。来期予想の売上額判断(12.3)、収益判断(7.4)ともに悪化の見込み。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は改善～

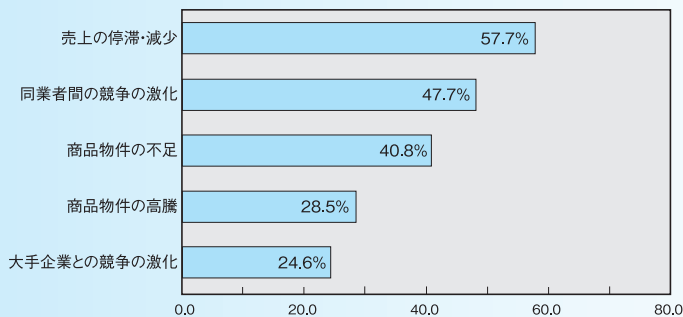
販売価格判断(DI)は46.7(前期比3.7ポイント減)と悪化。一方、仕入価格判断(DI)は53.3(同7.9ポイント減)と改善した。来期予想の販売価格判断(45.1)は小幅に悪化、仕入価格判断は(50.0)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

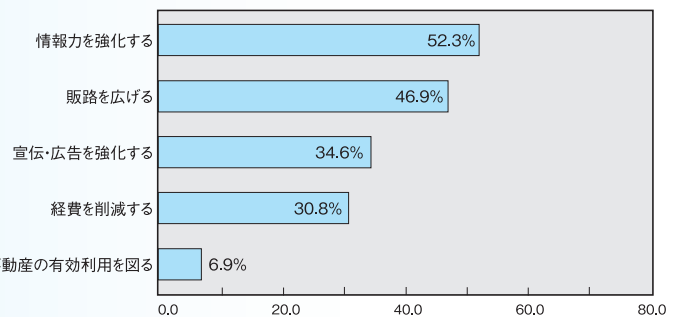
～資金繰りはほぼ横ばい、人手は改善～

資金繰り判断(DI)は2.5(前期比▲0.6)とほぼ横ばい。人手判断(DI)は▲2.4(前期比3.1ポイント増)と改善。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.8%→今期0.8%となり横ばい、適正とした企業の割合は同93.0%→同95.9%となりわずかに増加。人手不足とした企業の割合は同6.3%→同3.3%とわずかに減少した。来期予想の資金繰り判断は(0.8)と小幅に悪化、人手判断(▲3.3)は、ほぼ横ばいの予測。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント



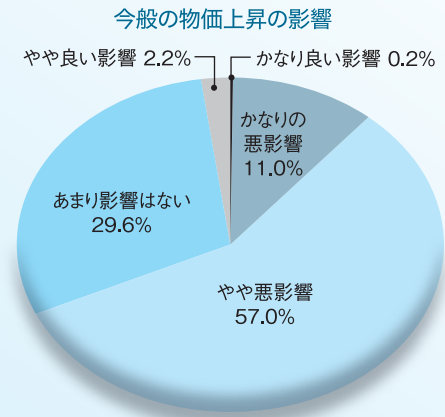
- 仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できており業況は安定。(不動産)
- 収益物件の入居率も満室を維持しており、業況安定。(不動産賃貸)
- 物価の高騰により家賃引上を検討している大家と入居者の交渉が必要。(貸家業)
- 仕入値高いが何とか工夫して対応中。(不動産業)
- 価格高騰により、物件仕入難航中。(不動産業)
- 燃料費の高騰の影響により利益確保が難しいとのこと。(不動産・建築業)

今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「物価上昇の影響と賃上げ動向について」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2023年3月1日～7日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答は1,182社（有効回答率98.5%）。

現在、全体的に物価が上昇傾向になっています。貴社にとって、今般の物価上昇の影響はどれほどでしょうか。次の中から1つ選んでお答えください。

～「やや悪影響」57.0%、
「あまり影響はない」29.6%、
「かなりの悪影響」11.0%～

「今般の物価上昇の影響」について聞いたところ、「やや悪影響」と回答した企業割合は57.0%と過半数を占めた。（業種別では、建設業が62.8%と高く、サービス業が50.5%と低い）また、「あまり影響はない」と回答した企業割合は29.6%となった。（業種別では、サービス業が41.9%と高く、卸売業が19.5%と低い）。他にも、「かなりの悪影響」と回答した企業割合は11.0%（業種別では卸売業が15.3%と高く、サービス業が6.6%と低い）。



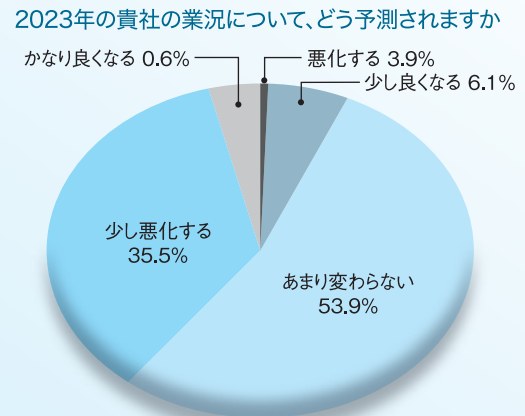
■業種×今般の物価上昇の影響

割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
11.0%	かなりの悪影響		14.6%	13.0%	15.3%	10.8%	6.6%	7.0%	11.4%
57.0%	やや悪影響		57.3%	52.5%	62.7%	60.1%	50.5%	62.8%	56.1%
29.6%	あまり影響はない		26.1%	32.5%	19.5%	27.7%	41.9%	27.6%	26.0%
2.2%	やや良い影響		2.0%	2.0%	2.5%	1.4%	1.0%	2.5%	4.9%
0.2%	かなり良い影響		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

今年（2023年）の貴社の業況について、物価動向も勘案し、どう予測されますか？

～「あまり変わらない」53.9%、
「少し悪化する」35.5%、
「少し良くなる」6.1%～

「今年（2023年）の貴社の、物価動向を勘案した業況の予測」について聞いたところ、「あまり変わらない」と回答した企業割合は53.9%と、過半数を占めた。（業種別では、サービス業が62.6%と高く、卸売業が47.9%と低い）また、「少し悪化する」と回答した企業割合は35.5%（業種別では卸売業が43.6%と高く、サービス業が28.7%と低い）。他にも、「少し良くなる」と回答した企業割合は6.1%となった。（業種別では、建設業が7.6%と高く、小売業が4.7%と低い）。



■業種×2023年の貴社の業況について、どう予測されますか

割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
0.6%	かなり良くなる		0.5%	1.5%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.6%
6.1%	少し良くなる		7.0%	5.5%	6.0%	4.7%	5.1%	7.6%	6.5%
53.9%	あまり変わらない		49.2%	54.3%	47.9%	48.6%	62.6%	56.6%	54.5%
35.5%	少し悪化する		36.7%	33.7%	43.6%	41.9%	28.7%	33.3%	35.8%
3.9%	悪化する		6.5%	5.0%	2.6%	4.1%	3.6%	2.5%	1.6%

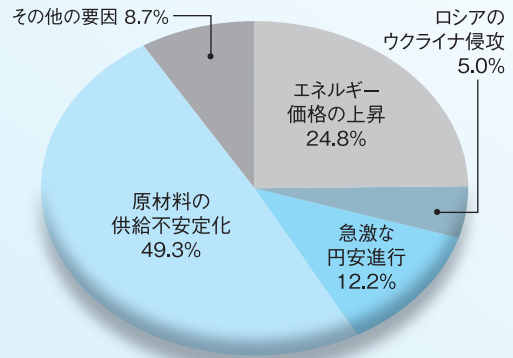


貴社の事業に最も影響が大きいと思われる要因は？

～「原材料の供給不安定化」49.3%、
「エネルギー価格の上昇」24.8%、
「急激な円安進行」12.2%～

「貴社の事業に最も影響が大きいと思われる要因」について聞いたところ、「原材料の供給不安定化」と回答した企業割合は49.3%と、ほぼ半数を占めた。(業種別では、建設業が63.8%と高く、サービス業が22.2%と低い) また、「エネルギー価格の上昇」と回答した企業割合は24.8% (業種別ではサービス業が46.0%と高く、不動産業が14.9%と低い)。 また、「急激な円安進行」と回答した企業割合は12.2%となった。(業種別では、卸売業が25.6%と高く、建設業が6.5%と低い)。

事業に最も影響が大きいと思われる要因について



業種×事業に最も影響が大きいと思われる要因について

割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
24.8%	エネルギー価格の上昇		21.6%	21.0%	19.7%	23.0%	46.0%	21.1%	14.9%
5.0%	ロシアのウクライナ侵攻		4.5%	7.0%	6.0%	2.7%	4.5%	3.0%	8.3%
12.2%	急激な円安進行		14.1%	10.5%	25.6%	10.8%	12.1%	6.5%	9.9%
49.3%	原材料の供給不安定化		57.3%	59.0%	42.7%	47.3%	22.2%	63.8%	49.6%
8.7%	その他の要因		2.5%	2.5%	6.0%	16.2%	15.2%	5.5%	17.4%

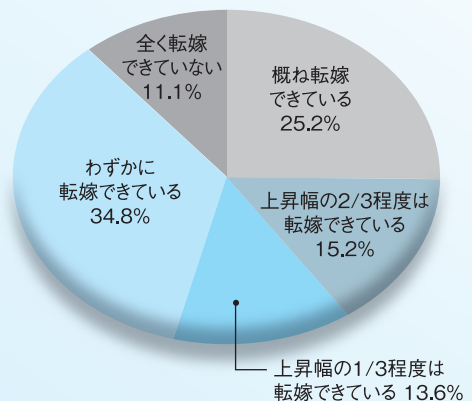


物価上昇により仕入価格や経費等も上昇しているが、販売価格に転嫁できていますか？

～「わずかに転嫁できている」34.8%、
「概ね転嫁できている」25.2%、
「上昇幅の2/3程度は転嫁できている」15.2%～

今般の物価上昇の影響による仕入価格・経費の上昇が、販売価格に転嫁できているか聞いたところ、「わずかに転嫁できている」が一番多く34.8%を占めた。(業種別では、小売業が42.2%と高く、逆に不動産業では30.1%と少なかった) 2番目に多い「概ね転嫁できている」は25.2%となった(業種別では、不動産業が32.5%と高く、逆に金属機械工業では20.0%と少なかった) 3番目に多い「上昇幅の2/3程度は転嫁できている」は15.2%となった。(業種別では、金属機械工業で22.5%と多く、小売業では6.8%と少なかった) また「上昇幅の1/3程度は転嫁できている」は13.6%となった。

物価上昇を販売価格に転嫁できているか



業種×物価上昇を販売価格に転嫁できているか

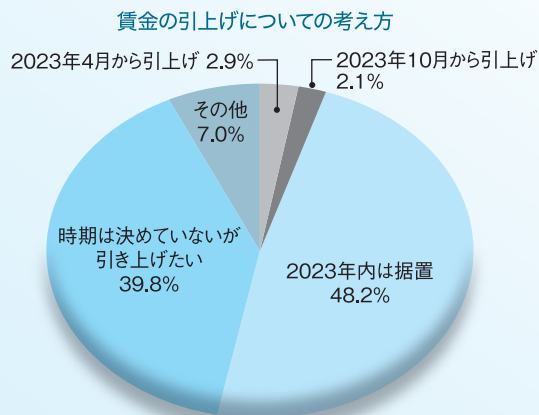
割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
25.2%	概ね転嫁できている		25.1%	20.0%	30.5%	27.9%	20.9%	25.3%	32.5%
15.2%	上昇幅の2/3程度は転嫁できている		19.1%	22.5%	11.0%	6.8%	9.7%	17.7%	16.3%
13.6%	上昇幅の1/3程度は転嫁できている		14.6%	17.5%	18.6%	9.5%	7.7%	17.7%	8.9%
34.8%	わずかに転嫁できている		35.2%	34.5%	30.5%	42.2%	37.8%	31.8%	30.1%
11.1%	全くと転嫁できていない		6.0%	5.5%	9.3%	13.6%	24.0%	7.6%	12.2%



今般の物価上昇に伴い賃金上げを発表した企業がありますが、貴社は賃金の上げについてはどのようにお考えでしょうか？

～「2023年内は据置」48.2%、
「時期は決めていないが
引き上げたい」39.8%～

今般の物価上昇に伴い、賃金上げを発表する企業もありますが、自社の賃金上げの動向について聞いてみたところ「2023年内は据置」が一番多く48.2%を占めた。
(業種別では卸売業が53.4%と高く、製造業が43.7%と低い)
次に、「時期は決めていないが引き上げたい」が39.8%となった。
(業種別では金属機械工業45.5%と高く、小売業が30.4%と低い)、と続いている。



業種×賃金の上げについての考え方

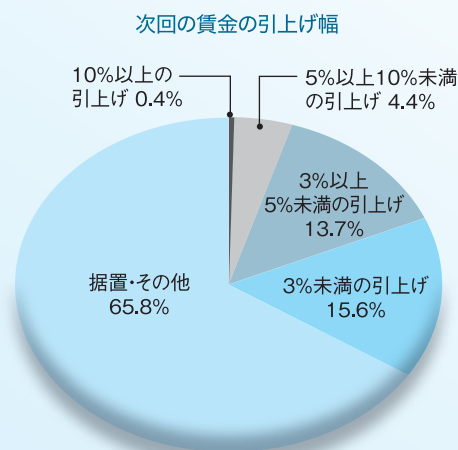
割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
2.9%	2023年4月から引上げ		3.0%	4.5%	3.4%	0.0%	2.0%	5.0%	0.8%
2.1%	2023年10月から引上げ		3.0%	2.0%	1.7%	2.0%	2.5%	1.5%	1.6%
48.2%	2023年内は据置		43.7%	45.0%	53.4%	52.7%	49.0%	46.2%	52.0%
39.8%	時期は決めていないが引き上げたい		44.7%	45.5%	39.0%	30.4%	38.9%	39.2%	37.4%
7.0%	その他		5.5%	3.0%	2.5%	14.9%	7.6%	8.0%	8.1%



次回の賃金の上げ幅は、前年度と比較してどの程度を想定しておられますか？

～「据置・その他」65.8%、
「3%未満の引上げ」15.6%、
「3%以上 5%未満の引上げ」13.7%～

次回の賃金の上げ幅について質問を行ったところ、「据置・その他」が一番多く65.8%を占めた。
(業種別では小売業が79.7%と高く、卸売業が57.6%と低い)
次に、「3%未満の引上げ」の15.6%
(業種別では製造業が19.7%と高く、小売業が10.1%と低い)
と続いている。また、「3%以上5%未満の引上げ」が13.7%
(業種別では卸売業が17.8%と高く、小売業が8.1%と低い)
と続いている。



業種×次回の賃金の上げ幅

割合	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
0.4%	10%以上の引上げ		0.5%	0.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
4.4%	5%以上10%未満の引上げ		5.1%	3.0%	5.1%	2.0%	6.6%	5.6%	2.4%
13.7%	3%以上5%未満の引上げ		12.6%	16.0%	17.8%	8.1%	10.6%	16.7%	14.6%
15.6%	3%未満の引上げ		19.7%	17.5%	18.6%	10.1%	14.1%	15.2%	13.0%
65.8%	据置・その他		62.1%	63.0%	57.6%	79.7%	68.7%	62.6%	68.3%

地域密着を信条とした65か店のネットワーク

店舗のごあんない

北おおさか信用金庫 店舗配置図



(2023年4月現在)

店外 ATM

- ◆ 吹田市水道部出張所
- ◆ 吹田市役所出張所
- ◆ JR吹田駅前さんくす出張所
- ◆ イズミヤ千里丘店出張所
- ◆ メロード吹田出張所
- ◆ フレンドマート岸辺出張所

- ◆ イオン高槻店出張所
- ◆ アクトアモール出張所
- ◆ 関西スーパー西冠店出張所
- ◆ サボイ出張所
- ◆ マルヤス富田店出張所
- ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所
- ◆ イオンスタイル新茨木出張所

- ◆ 小曾根出張所
- ◆ 三国商店街出張所
- ◆ 神崎川駅前出張所
- ◆ 毛馬出張所
- ◆ イオンモール大田出張所
- ◆ 大池出張所
- ◆ 庄内栄町出張所

- ◆ ちらほーとEXPOCITY店出張所
- ◆ 旭丘出張所
- ◆ 相川出張所
- ◆ 茨木市役所出張所
- ◆ 塚本駅前出張所
- ◆ ビエラ岸辺健都出張所
- ◆ 江口出張所

- ◆ 江坂出張所
- ◆ みのおキョースモール出張所
- ◆ 上牧出張所
- ◆ 香里出張所

営業地域(地区別)

大阪府：大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡
 兵庫県：尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡
 京都府：向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2023年4月28日
 発行行 北おおさか信用金庫 総合企画部
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32
 電話 072-623-4981(代)
 ホームページ <https://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>
 編集 株式会社 きたしん総合研究所

